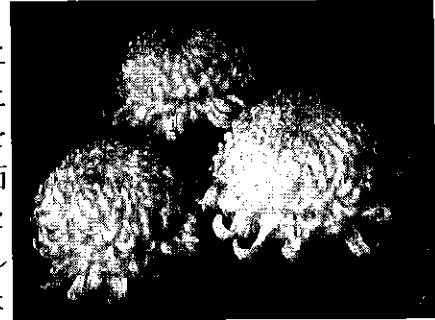


天知地知我知人知

先日、なぜかこの言葉が頭に浮かんできました。菊の栽培において、『大菊の3本仕立てでは、1番上の葉わきから伸びた側枝を「天」といい、2番目の側枝は「地」、3番目の側枝を「人」と呼び、支柱を立てる場合は「地」と「人」の枝を正面にして、「天」の枝を後ろに配置するのがルールである。』ということを知ったことがあり、「この“天・地・人”が関連しているのかな?」と思い、改めて調べて見ました。でも、ちょっと違ってました。



後漢の学者・楊震に推されて役人になった王密が、賄賂を贈ろうとしたときに「夜なので誰にも気づかれませんか」と言ったところ、楊震が「天知る、地知る、我知る、子知る。何をか知る無しと謂わんや」と答えたという故事に基づくもの。『誰も知る者がおらず、二人だけの秘密にしようと思っても、天地の神々も知り、自分も相手も知っているのだから、不正は必ず露見するものだ』という意。

この前も、車を運転中、目の前の信号が黄色に変わり、思わずそのまま進んだところ、助手席の妻が「なんで止まらんと!」と一喝。「こういう気の緩みが事故につながったりする。」と反省した次第です。私達の生活は、多くの人とのつながりのなかで成立しています。そのため、多くのルールやマナーが存在します。そして、何より信頼関係があって成り立っています。“天知る地知る我知る人知る”この言葉は、「小さなことでも約束事を守る、信頼関係を大切にする。」このことが大切だという意でもあると思った次第です。学校生活においても、全ての生徒が、この言葉を意識してくれればと願っています。

感動、感謝



いよいよ体育大会の練習が本格的に始まりました。今年の学校テーマは「感動、感謝」。その第一幕のスタートです。今年もコロナ対策のため半日日程としましたが、生徒はやる気満々。赤団の団長は綾部元樹くん。青団の団長は永野康生くん。赤団、青団ともに立候補で団長が決定したとの報告がありました。この2人を支えるリーダーが両団ともに5名ずつ。彼らの気合いも十分。金曜日の結団式が終わった後、一人のリーダーに「大変だろう?」と声をかけたところ、「はい、やっぱりみんなをまとめるのは大変です。」との返事。しかし、彼女の表情や声はさわやかそのもの。G・Wをはさんで実質2週間余。あまり時間はありませんが、彼らにとってもきっと貴重な体験になるはず。赤団・青団ともに、応援リーダーを中心に、各団約60人が一致団結し、一条乱れぬ演技・競技を披露してくれることと期待しています。